

## 第2回接続委員会 議事概要

日時 平成21年1月13日(火) 10:00~11:00  
場所 第3特別会議室  
参加者 接続委員会 東海主査、酒井主査代理、相田委員、佐藤委員、  
関口委員、藤原委員、森川委員  
総務省 武内電気通信事業部長、  
淵江事業政策課長、  
古市料金サービス課長、  
村松料金サービス課企画官、  
飯村料金サービス課課長補佐、  
寺岡料金サービス課課長補佐

### 【議事要旨】

接続料規則等の一部改正について（電気通信事業部会への報告書案）

- 総務省から資料説明が行われた後、報告書案について、審議が行われた。
- 報告書案について今回の接続委員会での承認を受けて、次の電気通信事業部会で報告されることとなった。

### 【主な発言等】

東海主査：今日は二つあり、一つは例年通り長期増分費用（以下「LRIC」という。）方式の平成21年度における入力値の更新である。もう一つは公衆電話機能等のNTSコストのFRT-GC間伝送路費用の控除に係る規定整備に関するものである。ご議論頂きたい。

佐藤委員：意見の中でも透明性について触れられていたが、長期増分費用モデル研究会では傍聴は可能なのか？

総務省：事業者データの秘密性の保持の観点から非公開である。

佐藤委員：一部公開することは可能か。

総務省：モデルの見直しにおいて耐用年数の推計式やフォワードルッキング性を加味するものについてはその推計式や方法を公開している。具体的な数値については公開していない。

佐藤委員：公開できる範囲とできない範囲があると思うが、できるだけ公開の方向が望ましい。もちろん、事業者データを含んだものが公開できないことは理解している。次に、NTSコストの付け替えを行い、一方でFRT-GC間のコストを20%ずつ戻しているが、FRT-GC間のコストの総額は減少しているのか。

総務省：FRT-GC間のコストの総額は平成20年度接続料で約670億円である。回線数の減少と入力値の見直しにより、総額については毎年、減少傾向にある。

佐藤委員：GC接続料で考えたとき、ユニバーサルサービス料（NTSコスト）が暫定的に接続料にいくら入っているのか。

総務省：たとえば、平成20年度接続料のGC接続料4.53円中、ユニバーサルサービス料分は約1円である。

佐藤委員：接続料原価及び単金はトラヒックの影響でどうなるのか。

総務省：分子のコストとしての接続料原価はトラヒックの影響で減少するが、分母のトラヒックも同時に減少しているので、単金としては今後、上がる可能性がある。

東海主査：省令改正は平成21年度からとなっているが、平成20年度はどのような措置をとったのか。

総務省：平成20年度について、まず公衆電話機能については諮問中の接続料であったので、審議会の要望事項として補正申請を求め、二重取りをしない形での補正申請を認可することで対処した。LRIC接続料については諮問中ではなかったため、審議会の指摘の趣旨をふまえ二重取りをしない形で行われた申請を認可することで対応した。

関口委員：意見1についてであるが、モデルを作った当時、守秘協定を結んだと思うので、守秘協定を結んでいる事業者に限って傍聴することは問題ないのではないか。

東海主査：守秘協定の事業者にも漏らしたくないデータもあるのではないか。

総務省：モデルを見直す際には、ワーキンググループに守秘協定を結んだ事業者が参加している。

佐藤委員：事業者データを見ただけで他者は適正なものかどうかを判断することはできないので、プロセスで判断し適正と見なしている。より透明性を確保するように今後は工夫して欲しい。

東海主査：LRICモデルの数値の妥当性についても、ヒストリカルコストとの比較からも議論を深めるべきではないかと言われてきたので、今後は委員会の中で前向きに対処を考えていく必要がある。

酒井委員：LRICモデルは実際モデルとは違っているが、方法としてはLRICモデルしかないということで今まで続いてきた。経済学的にはどうか。

佐藤委員：イギリスではプライスカップ型を採用している。

総務省：イギリスは、初期値のみLRICモデルで算定し、あとはプライスカップ型で対応するハイブリッド型である。

東海主査：頂いた意見は三つであるが、それに対する考え方は現状としては適切であり、1月29日の事業部会にはこの報告書案のとおり報告することとしたい。

以上